

令和 2 年度 第 1 回
薩摩川内市総合教育会議
会 議 録

開催日時：令和 3 年 2 月 1 9 日（金） 開会：1 3 時 3 0 分
閉会：1 4 時 5 0 分

開催場所：薩摩川内市役所 5 階 教育委員会室

出席者：

田中市長、藤田教育長、三本教育長職務代理者、軍神教育委員、枇杷教育委員
土器手教育委員

事務局：

（市長部局）

田代総務部長、古里総務課長

（教育委員会）

上大迫教育部長、大濱教育総務課長、村上学校教育課長、玉利学校教育課専門職、
橋口社会教育課長、羽田文化課長、南少年自然の家所長、堂元中央図書館長

傍聴者：なし

資料：別紙による

令和3年2月19日（金）

【開会時刻 13:30】

(1 会次第1：開会のことば)

総務課長 ただいまから、令和2年度第1回薩摩川内市総合教育会議を開会いたします。それでは、田中市長にご挨拶をお願いいたします。

(2 会次第2：市長挨拶)

田中市長 こんにちは。本日は、令和2年度第1回薩摩川内市総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は、昨年11月7日就任以来、初めての会議でございますのでいろいろと教えてください。本日出席の委員の皆様には、この総合教育会議のみならず市政発展のために、かねてより格別のご高配を賜り改めて感謝申し上げます。

ご案内どおり平成27年4月から新たな教育委員会制度となりまして、この総合教育会議も7回目の開催となっております。本日の会議のテーマは、教育施策の現状と取組みについてということで、忌憚のないご意見を賜りたいと思っております。委員の皆様と意見を交換させていただくことで、教育施策、政策の方向性を共有するとともに、より良い教育行政が展開できるように市全体としても取り組んでまいりたいと考えております。お忙しい中、お集まりいただきました。改めて、忌憚のない活発な意見交換となりますようよろしくお願いいたします。

(3 会次第3：「出席者紹介」について)

総務課長 ※ 出席者を紹介

それでは、これより議題に入りますけれども、市長に議長をお願いしたいと思っております。これからの進行をよろしくお願いいたします。

(4 会次第4「教育施策の現状と取組み」について)

田中議長 それでは、会次第の4番目、議題に入りますが、本日の議事につきましてはお手元の配布資料によって進めてまいりたいと思っておりますので、ご確認方よろしくお願いいたします。それでは、本日のテーマでございます教育施策の現状と取組みにつきまして、教育委員会の方から説明をお願いいたします。

※会議資料に基づき藤田教育長、上大迫教育部長が説明

田中議長 ただいま一括してご説明いただきました。教育長からは、教育に関わる大綱は薩摩川内市総合計画の5番目の教育文化部門ということ、教育振興基本計画は、令和2年度から6年度までという位置づけということを説明頂きました。教育部長からは、資料1にあります令和3年度教育行政の施策概要ということで予算(案)的な説明でしたが、この資料1については、後日審議頂くという取扱いでございました。この総合教育会議は、委員間討議ということで、当局に説明を求めるものではなく、大きな施策の方向性の共有、課題の提起、私を含めた各委員の思い、課題の共有、政策提言など自由な立場でご発言をお願いしたいと思っております。今、教育部長から説明のあった、資料2の1については、去年から大変な猛威を振るっております新型コロナウイルス感染症の取組みの現状ということで、感染した場合の危機管理などについて説明がありました。委員の皆様から所感、課題提起がありましたら、自由な立場でご発言をお願いしたいと思っております。

三本委員 現場の方は、おかげさまでクラスターもなく、子供たちは素直なので、マスク・手洗いをきちんとしないといけないということを励行してくれているかと思えます。ただ、学校に登校するときの検温は、家庭で検温して検温カードに書くようになってはいるのですが、そこがなかなか難しいのかなと思っているところです。マスクと手洗いは大事で、ウイルスが付着するという表現もあるようなので、学校へ石鹸を常時置いてほしいということをお願いして設置いただいております。

田中議長 土器手委員は、PTAの現役だと思えますが、学校や子供さん達の対策は具体的にどのような感じですか。

土器手委員 マスクに関しては、大人よりもいち早く着ける習慣がついたので普段出かけるときも、親が息苦しいなと思う時も子供たちは気にせず付けて、慣れていると感じます。ただ、マスクはウレタンや不織布等ありますが、子供に不織布の方がいいのではないのかと言うと、息ができないといってウレタンの方をして行きます。子供たちは柔軟に対応していけるなどは思いますが、マスク着用により相手の表情とか、今後の子供たちの成長にどう影響するのかを考えるとときがあります。何事もなくても大声で叫ぶのが子供だし、それが出来ない環境はどうなんだろうという思いはあります。

田中議長 ありがとうございます。先ほど、三本委員からありましたようにコロナ禍の中の手洗いなんですけども、子供たちも大人も、あと半年でワクチン接種が鹿児島医療センターでも始まりますので、ご出席の皆様も2回はワクチン接種を受けていただくことで、あと半年間のうちにコロナ感染は収まると思えます。

この教育現場におけるコロナ禍のアフターコロナを考えた場合、衛生という面からすれば今ありましたように検温までは必要ないのでしょうけど、手洗いは習慣として残すべきなのかと私も思っておりますが、軍神委

員はいかがですか。

軍神委員 先ほど三本委員が言われたように、子供たちは言われたことをきちんとしますので、小中高、未就学児の施設も同じだと思いますけど、私の勤務する施設を考えると、子供が一番に感染源になるというよりも、一番は職員や保護者にしっかり呼び掛けて話をしないといけないと思います。職員もいろいろ意識を高くして自分の子供にもある程度厳しく言っているというところもありますので、今の学校の状況を見ると、校長を始め先生たちが頑張っているんだなど、あるいは保護者も地域の方々も含めて皆が協働して頑張っている様子が伺えますよね。このことが、コロナ禍の中で、子供たちを育成する中で役に立ってくればなと思います。学校がまとまる、子供たちの意識が変わる、先生たちが変わる、あるいは学力への影響などいろいろありますけれど、そういうものを変えられるチャンスではないかなと思うので、マイナス面だけではなくてワクチンができてこれからがやはり色々な意味で、また明るい方に進んでいけるのではないかと期待を持っているところです。

田中委員 枇杷さんは学校の健康管理を含めてどうですか。

枇杷委員 私は、メディアが新型コロナの恐怖心を煽っているような気がしています。最初に発生が確認された時にも、6割が感染しないと収束しないだろうと言われていて、なぜ感染に対してこんなに気を付けないといけないかという、その大きな原因は医療機関が逼迫しないようにすることにあると思います。ワクチンが今出てきましたので、ワクチンを打つことによって症状が軽減される又は感染が抑えられる状況で多分、普通の生活に戻ることが出来るだろうということなんですけれども、子供たちがこれも新型なので絶対ではないのですが、重症化しないだろうと言われてるので手洗い、うがい、マスクをするということに気を付けてもらい、もちろん発熱した子供は家にいないといけないんですけれども、子供たちは通常の生活をして私は問題ないと思っております。重症化する可能性のある大人や高齢者に関しても、やっぱりもっと丁寧に対応しないといけないと思うんですけれども、マスクをしていることによって保育園等ではよく噛んで食べるというのが子供たちに上手く伝えられなかったり、表情が見ないということで、大変苦労されていたり保育園に関してはあまりマスクにこだわらないで、保育をされているというところもあると聞いております。感染することが悪いことだという認識を少しずつ変えていかないといけない、と私は思っているところです。しかしながら、ワクチンも接種できるようになりますが、2回以上罹患する可能性もあると言われてるので、やはり医療機関の逼迫を考えるとみんな気を付けないといけないのは確かです。ただ、感染すること自体にあまりにも恐怖心を煽り過ぎると、子供たちの教育にも影響があります。今、手洗いうがいとマスクをすることはできていますが、ただ三密を避けることを重視しすぎて、給食もなるべく喋らないで食べましようとか、コミュニケーションを取ることが出来な

いのはとても残念なことだなと思います。まあ仕方のないことかなとも思います。

田中議長 世界的な話で、世界人口が77億人で感染された方は1億人を超え、一方でワクチン接種された方も1億人以上ということで、我が国もやっと2日前から後発で始めているところです。枇杷委員がおっしゃったようにワクチンを接種することによってコロナに罹るといふことの意識があまり知られていないから、これから半年間でいろいろ動きがあると思います。それから、薩摩川内市のコロナの感染者は28人と数が少なくてクラスターもないということは、先ほど軍神委員がおっしゃったように子供も大人も感染予防に取り組んでいる数字の表れではないかなと思います。

ステイホームということで子供たちもがむしゃらに推進してきたんですけれども、市長就任以来3カ月半はステイホームの毎日で家族との関わり方や地域との関わり方も含めてコロナ禍は大変ですが、自分自身のことと家庭との関わり方を見直すいいきっかけなのかなと思っております。それから、土器手委員と枇杷委員からもありましたように、表情が見えないとか声が出せないというコロナ禍のマスクの弊害もあるんですけれども、コロナ禍で部活やイベント、就学旅行も中止・延期となり、そういう情報や影響についての考え方はお持ちでしょうか。ありましたら、ご紹介をお願いします。土器手委員いかがでしょうか。

土器手委員 うちの小学生の子供は、自分もやっていたこともあって空手をさせていて、11月か12月に毎年試合があるんですけれども、指導者に聞いたらマスクをして試合をすと言われました。私は、接近して全身をフルに使い競う競技なのにマスクをして息を上げさせるのは危険だと思ったので、試合に出させなかったことがあります。あと、上の中学生、高校生の子たちはコロナが流行りだした頃、年に1回の数少ない定期演奏会が中止になって可哀そうだなと思ったことがあります。子供たちもがっかりするので、そういうことがワクチン接種により徐々に無くなって少しでも気を遣わないようになればいいなと思っております。

田中議長 楽しみが奪われたことによる落ち込みのフォローなど、お父さんとしての役割はどうですか。

土器手委員 みんなコロナでこういう状況だから、みんな辛抱しないとしょうがないよ、というしか言えなかったでしたね。

田中議長 軍神委員どうぞ。

軍神委員 市で行う県道連盟の全行事を中止しました。やはり2千人来るとなると、どう考えてもソーシャルディスタンスが取れなく、またどうやってソーシャルディスタンスをとるかとなった時に、みんなの結論はやはり守る術がないということで全部中止にしました。しかし、段々と県の方も試合が出

来るようになり、私も2回くらい審判に行きましたけれども、今、子供たちはどうしているかと言うと、空手と同じで銀行強盗のようなマスクをしています。審判から鼻を隠すように厳しく言われているので、鼻を隠してマスクをして、さらに剣道の試合の中身も変わってきて、つばぜり合いを無くすようになるとなっておりますので、引付いた途端、何もなければ「分かれ」の声が掛かるし、子供たちが分かれる動作をしなければ反則を取られる。それと、離れていないと声が出せないなど、上部団体からの通知で流れが変わってきていますが、試合は少しずつですけれども始まりました。ただし、保護者は入れずに、審判と出場する子供たちだけというのが今の状況です。

田中議長　私も昔、空手をしていて、軍神委員がおっしゃったように子供たちからすれば、工夫をしながら大会やイベントに出るというやり方とそれから、去年は国体・甲子園等の大きな大会にしても止む無くほとんど中止、今年も中止でしたが、昭和31年生まれの古い人間である私の育ち方からすれば、そういう辛いときがあってもそれを乗り越えて次に、という生き方というものがあるんじゃないかな、と思います。現実には、容認しないといけない中で、コロナ自体は50年、100年に一回あるようなことで、いろんなイベント、スポーツ、文化活動が中止になったとしてもそれはそれで後々それを乗り越えていったという考え方の方がいいのではないかな、と個人的には思います。何か他にはないでしょうか。

藤田教育長　この資料の3つ目にリモートによる三密を避けた取組みで生徒会立会演説会や合唱コンクール等が紹介されていますが、学校としては3年生の記念になる行事や節目となる2年生の修学旅行、それから少年自然の家の宿泊学習など非常に教育的効果が大いと思われるものにつきましては、何とか工夫してやりましょうと知恵を絞っております。こうして合唱コンクールにおいても、みんなが大勢いる中で表情を見ながらというのが当たり前ですが、教室でリモートの取組みが出来るということでも子供たちは非常に感じるものがあつたと報告を受けております。それから、授業においても最初は家庭科の授業は出来ない、音楽で笛を吹くときや歌を歌うときはみんな壁側を向くという工夫をしていました。今、それぞれの委員からありましたように、子供の成長に何かしらの障害と言いますか、そういうのが心配されるというようなことがあれば、取り返しのつかないことになるので各学校では、校長や教頭はじめそれぞれ専門の教員たちが知恵を出し合っているようです。対外試合や中体連、小体連とも連携して工夫しながら今年の実施出来ましたが、去年の今頃くらいから学校の臨時休業も始まりましたので、もう少し続くというようなことであっても学校行事の工夫によって子供たちの思い出作りや精神的な逞しさを醸成していかなければならないと思っているところです。

田中議長　ありがとうございます。今、教育長からお話もありましたようにこれは総合教育会議ですけれども、コロナは全市民、全国民に共通することであ

り、今おっしゃったようにみんなに共通することで同じような考え方で工夫をしていかないといけないなど、改めて思いました。

他にはご意見はよろしかったでしょうか。

田中議長　それでは、薩摩川内市のGIGAスクール構想について、委員の皆様から何かございませんでしょうか。軍神委員どうぞ。

軍神委員　一人一台タブレットが配備されますが、子供たちはゲーム感覚でタブレットを使うと思うので、活用は出来ると思いますし、主体的に勉強出来るようになって自らどんどんやるようにはなると思うのですが、ただ、私が心配するのは対話的な子供同士の協働とか教員や地域の方々と深く関わるといふ部分については、学校でも十分に練らないと出来ないかなと、思います。今から思考力や判断力、表現力を養っていくんですけども、主体的な学びや対外的な学びも出来ますが、最後の「深い学び」というところがやはり学校も先生方もこれから勉強していかなければならないし、訓練や指導をしていかないといけないと思いました。

田中議長　ありがとうございます。三本委員はいかがでしょう。

三本委員　このGIGAスクールにつきましては、2019年度の文科省からの打ち出しでこのコロナ禍によって、1年の間に一人一台を急速に広げないといけないという非常に拙速な環境の変化があったわけですけれども、中国、アメリカ、韓国、イギリスなどオンライン授業をしている各国を見た時に、日本はICT活用が非常に遅れていて、今からだなと思いました。やはり、先ほど軍神委員もおっしゃったようにオンライン授業だけで子供たちの学力や授業を向上するという事は不可能かなと思います。そして、低学年の子供たちに関しては、保護者がつかないとパスワードを入力してそのサイトに入っていくたり、根本的な問題もあつたりするので一方的な授業になってしまう可能性があるのは世界各国同じ悩みなのかなと、思います。また、中国の場合は国がシステムを導入していますが、アメリカの場合は一企業がそれを担っているということで感心したところです。日本の場合は各市町村でシステムを今から立ち上げていくのかなと思うところです。

以前、ご質問したときに教育長から、まず出来ることから始めましょうということをお願いしたので、1年生にはパソコンのスイッチの入れ方とボタンの押し方、2年生には、3年生には、さらに中学生にはこの動作をというふうにやはり段階的な学びが必要だと思います。

田中議長　一昨日の読売新聞に、タブレット端末導入で操作に戸惑い、アルファベットをパスワードに入力するのに戸惑いとか土器手委員の子供さんは、当たり前のようにタブレットを持っていると思うのですが、そのことについて会話などありますか。

土器手委員　高校生の子は、私立なので学校で買ってもらっていて、小学生、中学生の子供は私のiPad(アイパッド)を使いYouTubeを見ているようです。学校の授業ではiPadがないと話にならないと思うのですが、より有効活用出来るように学校はもちろんですが、各家庭のインターネットの配線

状況はどうか、全世帯平等なのかなど少し厳しいのかもしれませんが、タブレットが家でも早く活用できるようになればいいなと思っております。また、学校の授業だけだったら時間が限られていますが、分からないところが家で何度も見られるようになり、親もまた見ながら何が分からないのか知ることが出来ます。家庭科で言えば、切り方、縫い方、ミシンの使い方など全然分からないまま私は大人になった記憶がありますので、そういうのが家でも見られたらいいなと思っています。タブレットは、慣れれば使い方はそんなに難しくないと思うので、年配で慣れていないような先生たちにも頑張って慣れていただいて教育の差が出ないようにしてほしいなと思っております。また、私は、このGIGAスクールにより学校でも家でも有効活用出来るような環境になればいいなと思っております。

田中議長　今はICTがある時代で生まれた時からスマートフォンがあり、未就学児もスマートフォンを持っている超情報化社会というのは数年前から世界で言われてきて、先ほども言われましたように、日本は中国やカナダに比べると遅れているのですが、このコロナ禍によりICTの実用をこの2年間で急加速させたような状況があって、端末を全児童・生徒に配ることに対しては皆が認めているという状況でございます。結論を急ぐわけではないですけども、先ほどのアフターコロナの衛生と一緒にこのコロナが収まってもICT技術は急加速していくことになるのではないかなと思います。GIGAスクール構想による端末の配布はいつまでに終える予定ですか。

藤田教育長　GIGAスクール構想は令和2年度から開始されました。配布は今年度3月末で終わります。Wi-Fi環境は既に工事が済んでおります。

田中議長　私も去年の5月に県議を辞めてこの事業の最中の11月7日に就任させてもらったのですが、児童・生徒と先生の差というか操作の仕方や教える能力など現実的なものがあるわけですよ。今からの研修や子供たちの段階的な教え方についての研修があると思うのですが、教育長はどうですか。

藤田教育長　資料2の2の一番下に書いてありますように、ICT機器そのものは鉛筆やノートと同じように文房具という手段で、目的が学力向上、あるいは今年から始まりました、大学の共通テストで求められている考える力を育てるということを忘れてしまいますと、端末を操作することだけに目がいって本末転倒になると思います。しかし、三本委員からありましたようにディスプレイのボタンを押すとどうなっていくのかを知らないと問題の展開が出来ないというのは確かです。平成に入った頃各学校にデスクトップの大きなパソコンが入って、コンピュータリテラシーという言葉が使われるようになりました。その使い方についての基礎的な知識は、最低限身につけないといけないと思います。また、教師が怖がることなくタブレットは便利なんだと教えて、今まで10時間かかっていた教材作りを1時間で行い、しかも1人の子供も取り残さないようにという大きな目標

がありますので、40人一緒に授業をした時に1人1人の考え方を教師が集約して理解するという事は今の授業のシステムでは出来ませんが、今後はボタン一つで全員の違う考え方が集約されて教師のモニターに映り、分類化されるわけです。そうすると、軍神委員がおっしゃったように今求められている対話的な話の展開について道具を使って出来るというのが、私たちが一番目標にしていることであります。今、考えておりますのは4月早々、各学校から数名教諭に集まってもらい、教材をどうしていくかということをお話し合ってもらってすぐにでも使えそうな教材開発、そして各学年段階のリテラシー等も含めて推進していこうと思っております。ただ単に問題をずっと解いていくのではなく、最初はこう思っていたが、君の考えを聞いて私はこう変わったというような友達との情報共有と情報交換が深い学びや考える力に結びついていけばいいなと思っております。教員がずっと喋り続ける講義は変わっていかないといけないと思っております。端末を入れることで、子供たちの考える時間の確保が出来るのではないかと考えているところです。大学が求めている考える力を小学校段階からしっかりと授業づくりで保証するという事を目標にしております。

田中議長 ありがとうございます。今、教育長からありましたように、改めてこのICTとかGIGAスクールの方向性、現実性というのは時代の潮流であり、今の子供たちの家庭環境にも必然性はあると思っておりますが、さりとて、ツールですよ。道具を配ることが行政の目的ではなくて、あくまでも教育効果を高めるための道具なんだと考えないといけないと思っております。それから、パブリックの個人的なことなんですけれども、1月から市長の電子決裁が始まりまして、昭和54年に市役所に入庁した時は紙文化で印鑑ですよ。ようやく電子データの方はよちよちしながら、市長の電子決裁をやっております。多いもので、市長まで20人くらいの押印がある決裁もありますので、大きな行政改革の中でも印鑑廃止論がありますけれど、やはり意思確認というのは非常に大事なことで、電子決裁のことも当たり前にしていかないといけないなと思っております。

また、新年度はモバイルパソコンが導入されて、テレワークが始まり、市長もパソコンの配布があるということなんですけれども、私はワークライフバランスのような考え方が無かったものですから、GIGAスクールのことを理解し、総合行政として導入・啓発をしていかないなと思っております。

あと、GIGAスクールのことで考えていることがありまして、これは私の意見ですが、先ほども言ったように未就学児からスマートフォンの世代で、バーチャル体験的なことではなくて自然、歴史、物に触れる自然体験や人と目を見て語るという二方向性が大事だと思います。GIGAはGIGAで、ある意味引きこもった閉鎖的な部分でそういう仮想空間だけの接点ということだけではなくて、子供たちと先生、家庭を含めて手を取って故郷の生き物に触れる、花を愛でる、それから故郷の歴史を学ぶなど、教育施策の打ち出し方としては大事なのではないかなと思っております。バーチ

ヤルのICT、GIGA、ロボット、AIの部分だけが世の中なんだという考え方は良なくて、ただ、自分自身の市政の基本方向としては、ふるさと創生や人と語る、それから故郷の歴史を腰を据えて見ていく、そういうのが大事なと思います。皆さんから何かありませんか。

軍神委員 私は、市長が言われるとおりでと思います。コロナがあるので、集団的なものがなかなか出来ないというのは確かにあると思うんですけども、発達障害の子供の療育という中で、子供たちは環境に敏感だと思います。環境というのは人も入るし、ものも入るし、場所も入るんですけども野外活動をして花を見たり川があるところに行って遊ばせたり、こういうことは凄く大切で、こういうのがないと子供の感性は育たないわけですよ。発達障害に関わる子供も増えてきています。多分、学校も同じような状態ではないかと思います。施設も私が居た5年前は2つでしたけれども、事業施設が10近く出来ていると思います。センターというのはつくし園しかないんですけども、この機能を簡単に言えば地域貢献まであります。事業施設は、10近くになってきていますが、それでも私のところで待っている方がいます。そういうのを考えると、発達障害を持っていない子供たちであっても同じで、色んなところに行って人と出会ってものを見たり感じたりというのは凄く大切だと思うので、このコロナが終わればさらにそういうことは出来るんじゃないかと思います。

田中議長 ありがとうございます。枇杷委員、何かございますか。

枇杷委員 このGIGAスクールについて私は、先生方の教育の仕方を否定するわけではないんですけども、ただ、今コマーシャルなど見ていると塾とかはタブレットを使う授業がすごく進んでいて、YouTubeに色んな先生がアップしているのを見て、基本的な学習に関して取り入れられるものはどんどん取り入れられたらいいんじゃないかなと思っています。あと、人との関わりというのがすごく大切で、私が教育委員になってとても良かったなと思うことが、学校がすごく地域を大事にしているということを知ったことです。以前、入来に行かせていただいた時に子供たちが観光ガイドを出来るくらいいっぱい地域のことを勉強していたり、大宮神社の踊りであったり、東郷の鳥丸で地域の方だけがしていた踊りを東郷学園全員で取組みをしようとか、こんなに地域の方と結びついているんだということを通じて先生方が子供たちに伝えてくださってるのが有り難いな、と思っております。それから、タブレットに任せられる部分は任せて、それ以外のコミュニケーションや地域を大切にするといった部分に、その分力を入れることができたらいいな、と思います。

藤田教育長 今、各委員からありましたように、この薩摩川内市の歴史、自然の豊かさは宝物だと思います。「ふるさとを愛し」という振興基本計画の大きなテーマにもあるように、まさにこれを具現化していくのが学校現場だと思います。昨日の南日本新聞の「おせもこ」という子供たちの目線で記事を書

いてある特集に、SSプラザで実施しました川内中央中学校校区の一貫教育の研究公開の一端が紹介されていました。それは、峰山小学校、平佐東小学校などの小規模校の子供たちに、川内中央中学校の生徒がリモート会議によって、出掛けて行かなくても新聞の作り方を教える過程が会場に紹介してあったんです。ICTを使うという点では、非常に良い取り組みです。それから、私たちが大事にしているのは「ふるさと薩摩川内学」といって、他の自治体にはない総合的な学習の時間です。特区ということでこれを一つの大きな特長としております。文化財にしても200近くありますし、この本では、校区ごとに非常に大事に受け継がれてきている伝統文化も含めて人材も紹介してあります。ですから、これらを基にして小学校と中学校の一貫教育の中で、子供たちが話し合い、作り上げていくという活動を先日紹介することができました。今委員の皆様からご意見をいただいたように、やはり子供たちに薩摩川内市の素晴らしさをこういう活動をしながら理解するというのと、私は薩摩川内市の子供たちを教える教員が、これをぜひ読破してほしいなと思っております。併せて、各学校の敷地内にはいわゆる各校区の偉人たちの石碑がありますので、それらを校長が全校朝会で紹介をすることで、子供たちが自分の学校の先輩である偉人を知るきっかけになるということで勧めているところです。何よりも、自分の住んでところが好きだという子供たちを育てたいなというのが私の思いです。そのような取り組みをしているということをご紹介いたしました。

田中議長 ありがとうございます。GIGAスクールについて何かありませんか。土器手委員どうぞ。

土器手委員 温かい目でみてあげるというのが一番だと思います。ただ、根本にある人と人とのつながりもあると思うので、タブレットなどは一つのツールとして使っていただけると、思います。今、ふるさと薩摩川内学にもありましたように、私は子供を育て上げ切っておりませんが、よその子にもやっぱり薩摩川内市で育ててここを好きになってもらって、就職で一度出てもやっぱり薩摩川内市に帰りたいなという街を作っていきたいし、そういう子供たちを育てていきたいなと思っております。また、先日もうすぐ定年になる某中学校の校長先生と話をしたときに、その方は伊佐市大口の出身だそうですが、いろいろな学校を転勤してこられたなかで、定年した後も薩摩川内市にいたいと言ってくださり、そういう言葉をいただけて嬉しいです。と言うと、その校長先生が、そういう子供たちを育てていくことが我々の使命だと思うと言われ、すごく嬉しかったし、この街に愛着を持ってくれる人を増やさないといけないな、と思ったところでした。こういういろんな教育の時代の流れもあるので、流れもしっかり読みながら計画的に進めて、温かみのある心を持った子供たちを育てていきたいなと、思いました。

田中議長 ありがとうございます。素晴らしいまとめだったと思います。これまで2つの議題について意見を出し合ってきましたが、委員の皆様からこれだけはお話したいといったことはないですか。

軍神委員 先ほど少し話をしたのですが、今の発達障害の子供たちの現状で本市も特別支援に関わる子供たちは多いんじゃないかなと思います。それは、すぐ不登校につながるとかそういうことではないんですけども、学力向上につながる部分もありますので、学校の中で特別支援員の方々がそれぞれいるんですけども、現場にいた頃に一番思ったのはこの支援員や地域の方々が学級に1人ずついてくれたらなと思いました。子供たちも環境の影響というのは非常に強いので、発達障害をある程度理解した人をもう少し学級に増やすことは出来ないのかなと思っております。

三本委員 令和3年度に特別支援員の配置の予算を4,900万円組んでいただきましたが、インクルーシブ教育とって、特別支援員を必要とする子供さんたちが過去10年間の間に2.5倍以上増えてきているという中、確かに困っている子供さんたちがいらっしゃる、その子供さんたちを通級とって普通の暮らしに入ってもらい、そうした時にトラブルを起こしてしまっているという現状があります。低学年だと、多動性であったり瞬間的に感情を抑えることが出来なかつたりして、物を投げたりガラスを壊したり子供たちに物を投げて怪我をさせたり、教科書を破いたりといったこともあります。たしかに、インクルーシブ教育というのは大切なんですが、その支援をしてくださる支援員の方もさっき軍神委員からありましたように、その子供さんたちによって行動が違うので、今日の南日本新聞の南風録にも書いてありましたが、道徳教育をしていじめはだめだよ。仲良くしないといけないんだよ。という教育をする一方、片方の子供さんたちがそういうことをするということになると、教育現場の先生方が非常に困られるのかなというのが現状だと思っております。今後、特別支援配置事業というのはますます大事になってくるのではないかなと、思ったところでした。

田中議長 教育長からは何かありますか。

藤田教育長 特別支援教育については、社会的ニーズそれから子供たちの実数も増えてきております。年々、就学相談の数もそれから審査にかける子供たちの数も増えてきています。あと、軍神委員もおっしゃるように、療育施設に通って保護者も一生懸命勉強しております。そうしますと、就学前段階からその子に合った教育をしていくということが浸透してきていますので、生活経験をたくさんさせることによって、特に発達障害の子供たちは自律、自制という能力がついてきますので低学年の特別支援教育についての配慮というのは大事だと思います。来年度に予定しております支援員は、55人ですけども、これは減らすことは出来ないのではないかと、マンパワーという観点からしたときには大事だと思います。ですから、より個別指導

に入っていていただく方が必要なのではないかと私も思います。それから、特別支援学級の子供たちが通常学級の子たちといかに関わっていくかということと、また別の観点からは大人への啓発をしていくことも非常に大事です。この子たちの特性を知ってもらうということは理解につながることで、そこを来年度も重点的に行っていきたいなど、思っているところでもあります。併せて、発達障害についての教員の知識を増やしていくということも必要だし、そのための講演会や研修会も手厚くやっていく必要があると思っています。今、三本委員からもありましたように、子供たちが気持ちを抑えられなくなった時の対処方法というものも指導者が知らないと、ただ怒ってしまう方向にいつてしまい、ますます気持ちは高ぶって抑えられなくなってしまふということになります。一例ですが、そのようなことがあった場合にどうしていくかということ、教師も周りの大人も知っていないといけないということも感じます。特に、特別支援教育についてのニーズは年々高くなってきていますので、重点的に取り組んでいきたいと思っております。

(5 会次第5：その他)

田中議長 ありがとうございます。他にご意見はないですか。

最後に私が思っていることですが、市立幼稚園の子供たちの数の減少について、少子化で子供全体の数が減っているのは分かるんですけども、令和元年10月から市立も私立も、幼稚園が無償化になりまして、薩摩川内市の市立幼稚園の入園者数が激減しているということから、問題提起として教育部長に令和3年度の数値見込みなどの現状を委員にお示ししてください。

上大迫部長 今、市長からありましたように、幼稚園の無償化が平成30年10月に始まりまして。その時の市立幼稚園の入園児が341人おりました、それが平成31年には254人に、令和2年度には189人に、令和3年度には123人まで減少しようとしています。幼稚園については2、3年前前から休園に入っているところもありましたけれども、令和3年度の申込みは、休園中の八幡、いりき、祁答院の入園希望はありませんでした。また、大規模と言われる亀山や東郷につきましても、亀山の入園者数が56人から29人に、東郷が41人から20人に落ちてきております。一番小規模な例で言いますと、甕島を除きますと、城上幼稚園が10人から6人となっておりますので、入園者数が少ない中で市立幼稚園での幼稚園教育がどういう形でできるのか、岐路に立っている状況かと思えます。

田中議長 確認ですが、子供たちの人口減もあるんですが、入園児の減った分は私立幼稚園に流れているという理解でよろしいですか？

上大迫部長 3歳から5歳の入園児につきましては、私立幼稚園が増えておりますので、お金がかからなくなった面からすると、市立から私立の方に流れているというのが現状かと思えます。また、私立幼稚園の方に行きますと、

民間に委託して夜遅くまでやっている通常の入園時間を過ぎてからの一時預かりという、市立にはないサービスがある、などの違いもあるかと思えます。

田中議長　　今、説明があったように、市としても、教育委員会としても検討すべき問題ではありますが、教育部長からありましたように平成30年が341人でわずか3年後の令和3年度が123人、それから大きな校区である亀山も平成30年の101人から29人、東郷も平成30年の62人から20人、いずれも按分的に言うとなぜか3年で3分の1になっているという数字が現実なので、これはまた教育委員会や市としても、子供たちの教育効果とか、学校の先生方のこととか、今後かなり大きな問題になって来ると思いますので、本日は課題の提示ということでご認識をお願いいたします。

軍神委員　　認定こども園が出来たというのが一番大きいと思います。他の施設を変えることは出来ないので、どこまで出来るか分かりませんが、共働きをしている家庭も多くて、送迎や給食を提供してほしいという意見もあるので、そういう何か方向性として幼稚園が出来る範囲の中で変えていかないと、私立幼稚園を選択する親が多いのではないかなと思います。今からまたいろいろと検討していけばいいのではないかと思います。

田中議長　　他の委員の皆様、何かございませんか。ないようですので、これで総合教育会議を終わらせていただきたいと思います。

(6 会次第6：閉会)

総務課長　　それではみなさん熱心なご討議ありがとうございました。以上を持ちまして、令和2年度第1回薩摩川内市総合教育会議を終了させていただきます。長時間ありがとうございました。

【閉会時刻 14：50】